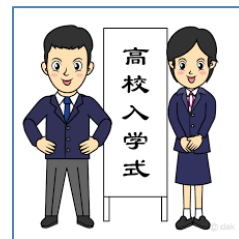


■入学おめでとう！



新入生のみなさん、入学おめでとうございます。みなさんは期待や不安など、さまざまな思いを持って本校に入学されたことと思います。高校は中学校と比べて、学習面はもちろん、部活動や学校行事においても自主性が大きく求められます。何事も自分から積極的にチャレンジしていけば多くのことが得られます。まずは、積極性を大事にしましょう。

高校生活の面白さの一つは、知り合える人の幅広さです。中学校までに知り合える人と言え、せいぜい自分の住んでいる地域の人だけだったのではないかと思います。しかし、高校（特に本校の場合）になると、地元だけでなく、遠く離れたところから通学（入学）してくる生徒が大勢います。そういった人たちとの出会いもぜひ大切にしていきたいでしょう。

高校は義務教育ではなく、自分でしっかりとがんばって、進級や卒業のための基準をクリアしなくてはなりません。欠席が多くなると進級に影響しますし、定期考査の点数や宿題などの提出状況も成績に大きく影響します。十分に気をつけましょう。

コロナ禍が続き、中学校生活もいろいろと不自由を強いられることがあったのではないかと思います。厳しい状況はもうしばらく続きそうですが、自分自身の夢や目標に向かって、着実に力をつけていってほしいものです。それぞれが充実した高校生活となることを期待しています。

■2・3年生のみなさんへ

2・3年生のみなさん、進級おめでとうございます。気持ちを新たに学校生活を送っていきましょう。2年生は「中だるみ」の時期などによく言われます。本校での生活にも慣れてきたことと思いますので、学習に部活動に・・・と充実した生活を送れるよう、がんばっていきましょう。「2年生でのがんばりが進路を決定させていく」と言っても過言ではありません。



3年生諸君は、いよいよ進路活動が本格化していきます。現時点で、ある程度、自分の方向性が決まっている人はそれに向けて着実に努力を重ねていってください。進学か就職か、大学か専門学校か・・・などで悩んでいる諸君もいると思います。自分の人生ですので、とことん悩み、じっくり考えて選択していくようにしてほしいものです。安易に決めてしまうのはとても危険ですし、ここでの選択は、人生を左右する一つの大きな岐路（きろ）と言えます。先生や家族、友だちなどもしっかり相談して、後悔しなくて済む判断をしていくようにしてください。

新入生へのコメントにも書いたように、もうしばらくコロナ禍が続きそうです。学校生活等で思うようにいかない部分もあるかもしれませんが、何とか乗り切り、希望進路実現に向けて努力していきましょう。

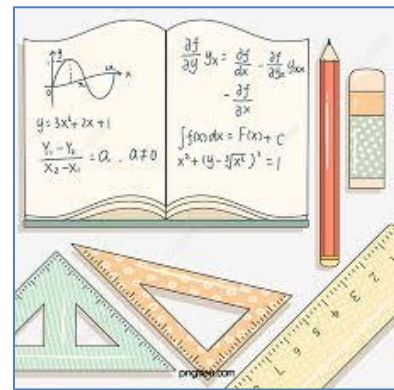
■ 卒業生の合格体験記

3月に本校を巣立った昨年度卒業生の合格体験記です。今回は、茨城大学に入学した大橋拓斗さん、株式会社タンガロイに入社した鈴木雅彪さんの2名です。ぜひ参考にしてください。

【合格体験記】 大橋拓斗さん（昨年度3年4組）

茨城大学理学部理学科数学・情報処理コース入学

僕は茨城大学に合格してまず初めに感じたことは驚きでした。茨城大学の学校型推薦は、数学の問題を解く小論文と10分程度の面接があります。受験を終えて帰るときに、僕はあまり出来なかったと思いました。ですから、合格発表のときに自分の受験番号を見つけたときには驚きました。また、志願理由書を書いたり、面接ノートを作ったり、面接の練習をしたり・・・と頑張ってきたので、合格したと分かったときはとてもうれしく思いました。



僕が努力したことは数学の勉強と志願理由書の作成です。僕は数学に興味があって、高校に入学してから大橋先生の指導の下、80点テスト（※100点満点で80点取るまで合格にならないという、大橋先生オリジナルの数学のテストのこと）をあまり苦にすることなく取り組んでいました。そのおかげで、僕は「数学をこれだけ頑張ったのだから、どんな問題が来ても大丈夫だ」という自信ができました。また、志願理由書の作成の方では、締切ギリギリまでかかって清書をしていました。僕が茨城大学を受験すると決めたのは出願締切の1か月程前だったのですが、下書きが完成したときには締切まで1週間もありませんでした。そこから清書を10回以上間違えてしまい、完成したのは本当に締切ギリギリのタイミングになってしまいました。締切まであまり時間がなかったため、焦ってしまい、何度も志願理由書を書き直すことになってしまったというのが反省点です。

僕が受験で大事だと思うことは、準備をなるべく早くから始めるということです。上にも書きましたが、僕は出願締切の1か月前に受験することを決めたので、必要書類をそろえるのがギリギリになってしまいました。悩んでいたこともありましたが、少しでも早く「この大学を受験する」と決意していれば、もっと余裕を持って準備できたと思います。

僕はこれからも自分の夢に向かって大学で頑張ります。みなさんも早くに受験校を決定し、しっかり小論文や面接の対策などに取り組んだうえで合格に向けてがんばってください。

【合格体験記】 鈴木雅彪さん（昨年度3年5組）
株式会社タンガロイ入社



内定を頂いた時は、とても驚きましたが、本当に色々な方々にお世話になったなという気持ちでいっぱいでした。進路指導担当の先生方には本気で向き合ってください感謝していますし、担任の先生や両親にもたくさんの心配をかけました。これから恩返ししていきたいと思えます。

私は、12月に公務員試験（福島県警察）に不合格となり、今回の試験までの準備期間は1週間しかありませんでしたが、進路指導担当の先生をはじめ、多くの先生方から手厚い指導をいただいたおかげで本番はスラスラと面接で答えられました。筆記試験は、公務員試験に向けて頑張ってきた蓄積があったので、それを復習する形で対策を進めました。空き時間があれば、参考書を広げて勉強していましたので、本番では解けなかった問題はほとんどありませんでした。

私が後輩のみなさんにアドバイスすることがあるとすれば、公務員試験を希望している人は、落ちた時の次のビジョンを具体的に考えておくということです。一般企業の採用試験は基本的に9月～10月には終わってしまい、12月頃になると本当に行きたいと思える企業が残りに少なくなってしまいます。その点を覚悟しておかなければなりません。一般企業の筆記試験自体は、それほど難易度が高くなく、中学生レベルの勉強をしっかりと復習しておくことが大事になります。面接については、進路指導担当の先生を中心に多くの先生方と練習していただくことで色々な的確にアドバイスを頂けるので大丈夫です。

最後に、自分が入社を希望する企業の情報はしっかりと調べておくことが大事になります。しっかりとした情報を認識しながら就職活動をすれば、色々な気づきが日常で得られると思えます。自分の悔いがないよう早いうちに就職活動に励んでほしいです。

■ 保護者対象進路説明会（動画）について



3月14日（月）から3月28日（月）にかけて、新高校3年生の保護者の皆様を対象にした「保護者対象進路説明会」の動画を配信しました。コロナ禍ということ、特に体育コースで県外出身者が多いことから動画配信という形で実施させていただきました。分かりにくい部分もあったかと存じますが、今後お子様が進路活動を進めていくうえで参考にいただければ幸いです。進学希望者に関しては、多額の学費がかかることから安易な学校選択を行わないようにしてほしいと思えますし、さまざまな奨学金制度も案内させていただきましたので、ご検討ください。就職については、例年7月1日にならないと求人票が出ませんので、それ以降、希望の仕事を探し、職場見学をしたうえで志望企業を決定してほしいと思えます。いずれにしても、ご家庭でよく話し合ったうえでどのような進路にするか決定させていくようにしてください。

■ 目標を持ってがんばろう！

いよいよ新年度が動き出しました。それぞれどのような目標を持って生活していくか、みなさんの決意は定まったでしょうか？特に3年生のみなさんは、今年度は人生の岐路となりますので、じっくり考えて志望校や志望企業を決めるようにしましょう。



さて、昨年度の卒業生で、本紙の当欄（『進路通信』の最後に、進路指導担当の清水がコラム風に書いています）は必ず目を通してという生徒がいました。体育コースのこの卒業生は、連日のように進路指導室に顔を見せて何らかの相談やら雑談やらをしに来ていましたし、時には、『進路通信』の感想も含めて、筆者の励みになるようなこともいろいろと話してくれました。『進路通信』について筆者としては、文字の量がかなり多いのが気になるころでしたが、その卒業生は「特に興味・関心のある話であれば気にならない」と話していました。

一方で、昨年度の（校内）探究活動発表会で、進学コースの代表者2名の最終練習に立ち会っていたときに、ある生徒が他方の生徒の作成した画面をめくって、「今の高校生は、たくさんの文字で示されるよりも、インパクトのあるイラストなどで示した方が興味を示し、しっかり見てくれると思う」という発言をされていてハッとしました。実際、その発言をした生徒は、探究活動発表会で、インパクトのある画面を使って発表していました。コロナ対策で、体育館や劇場などで一堂に会して実施されたわけではないので、そのインパクトのある画面が出たときの生徒諸君の反応はよく分かりませんでした。きっと笑いがドッと起こったり、何らかの大きな反応があったりしたものと想像します。

本紙は、例年3年生ほど真剣に読んでくれているという傾向があります。やはり、進路活動が本格化するということで、自分に関係する情報はもちろん、自分にはあまり関係ないかもしれない情報にも目を向けて、アンテナを張ろうとする意識の高い生徒が多くいることが理由として考えられます。進路指導担当としては、できれば、1・2年生のうちから、「進路」に対しての意識を持たせ、自分の志望校や志望企業に合格・内定できるように指導していきたいと考えています。そのために、少しでもお役に立てばうれしく思います。

3年生だけでなく、1・2年生のみなさんも、しっかりと目標を持って、志望校や志望企業に少しでも近づけるようにしていきましょう。時間はあっという間に過ぎてしまいます。まだまだコロナは収束していく状況にはなく、困難なこともあるかもしれませんが、1日1日の積み重ねを大切にして、希望進路実現に向けて努力してほしいものです。分からないことがあれば、早めに担任の先生、授業担当の先生、進路指導担当者に相談するようにしてください。

ちなみに、春休み中に昨年3月に卒業した永久保友惟さん（東北大学在学）と川又南さん（立教大学在学）が顔を見せ、学生生活の様子を話してくれました。コロナ禍で忍耐のいる生活を強いられてはいるようですが、対面での授業が多く行われていたり、サークル活動なども感染に注意しながら行われていたりするとのこと、楽しく充実している様子がうかがえました。在校生のみなさんも、ぜひ進学先でそのような学生生活を送ってほしいと思っています。

文責：清水聖（進路指導主事）